

～不登校などの不適應状態の子どもと保護者の相談～

不登校のお子さんについては、学校ではない場所で相談することができるため、学校に行くことに対する様々な気持ちを抱えているお子さんへの負担が少ないと思います。面接では、お子さんの気持ちに添いながら、評価を気にせず自由に安心して自己表現ができるようにかかわります。そして、お子さんが、自己肯定感を取り戻し、自ら望む方向に主体的に進んでいけるように援助していきます。その過程で、自らの課題に直面することもあります。そしてそれをこなせるようになるための大事なものを自分の中に見つけたり、課題をこなすための大事な自分を作り上げたりすることもあります。

多くの場合、保護者とお子さんそれぞれに面接担当者がつき同時並行で面接を行ない、それぞれに必要な援助を行っていきます。お子さんが不適應状態に陥った場合、保護者の方が相談する場所を得ることは非常に重要なことです。というのはわが子への愛情から保護者の方は、焦りや不安で一杯になられているからです。まず保護者自身のそのようなお気持ちが理解される場が必要です。さらに面接では、保護者の方と一緒に、お子さんが感じている思いや気持ち、さらには、お子さんが直面している課題についての理解を深めていきます。それらの作業を通して、保護者の方も悩まれますが、その悩みの中から、不適應に陥っているお子さんを育むために大事なものを見つけていかれ、それが、お子さんが自身の課題を乗り越えるための大きな力となっていきます。

カウンセリングは、子どもにとっても大人にとっても大事なものを見つけたり、作り上げたりする作業です。その点で、宝探しに似ています。今の悩みの中からこれから生きていくために必要な宝を見つける作業です。